

## 茨城大学農学部 公開シンポジウム

### 持続可能な農作業システムのためのカバークロップ利用

**開催日**：2007年12月13日（木）・14日（金）

**開催地**：茨城大学農学部（茨城県稲敷郡阿見町）

**共 催**：中央農業総合研究センター・日本雑草学会・ふるさと農地再生委員会

**参加費**：無料

**事務局**：〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見中央 3-21-1

茨城大学農学部フィールドサイエンス教育・研究センター 小松崎将一

電話/FAX 029-888-8707 E-mail [komachan@mx.ibaraki.ac.jp](mailto:komachan@mx.ibaraki.ac.jp)

**開催趣旨**：カバークロップの利用により、土壌保全や効率的な窒素サイクルの構築などの環境保全効果が注目されています。一方、欧米ではカバークロップを基幹とした農作業システムそのものが地域および地球環境の持続性向上に大きく貢献する可能性があるとして、様々な側面から研究が展開されています。今回は、日本での取り組みの実際や、研究現状についてご報告いただき、持続性の高い農作業システム確立に向けたカバークロップ利用について研究交流を進めることを目的としています。

#### 日程（予定）

12月13日（木）1日目

9時30分 受付

10時 開会挨拶

基調講演（10:10～11:30）

1) 緑肥作物（カバークロップ）を上手に使う－その効用と利用の実際

（東京農工大学名誉教授 塩谷 哲夫氏）

2) 農業経営現場における技術システム開発に取り組んで（農業経営者 高松求氏）

ポスターセッション（11:30～12:00）

講演（13:00～14:30）

3) カバークロップを利用した野菜栽培（北海道大学 荒木肇氏）

4) リビングマルチを利用した作物栽培（中央農業総合研究センター 三浦重典氏）

5) カバークロップは害虫や雑草種子の密度を低減させるか？

（東北農業研究センター 山下伸夫氏）

休憩（14：30～15：00）

講演（15:00～17:00）

6）カバークロープ利用と土壌線虫相（農業環境技術研究所 荒城雅昭氏）

7）カバークロープの利用と微生物（茨城大学 佐藤嘉則氏）

8）日本における緑肥・カバークロープ利用（雪印種苗 橋爪 健氏）

9）緑肥利用と耕うんシステム（スガノ農機 予定）

17時 閉会

12月14日（金）2日目

現地見学会

9時30分 茨城大学農学部集合

茨城大学農学部フィールドサイエンス教育研究センター・ふるさと農地再生委員会公開圃場・雪印種苗研究所・中央農業総合研究センターを見学予定

解散16時予定

会場のご案内



茨城大学阿見キャンパスマップ（福利厚生施設（こぶし会館））

交通のご案内

1) JR 常磐線

土浦駅西口から関東鉄道バス1番のりば「阿見中央公民館」行き、「東京医大前」または「茨大前」下車（所要時間約20分）

2) JR バス関東（高速バス）

東京駅八重洲南口 JR バスのりば「阿見・美浦・江戸崎」行き、「東京医大前」下車（所要時間約90～120分）

### 3) 常磐自動車道

桜土浦インターチェンジから農学部まで所要時間約 20 分

#### 参加の申し込み

参加は当日受付もできますが、会場準備の関係上、ワークショップ事務局まで事前にお申し込みいただきますようお願い申し上げます。その際、見学会参加の有無についてもお知らせください。

#### 事務局・問い合わせ先

〒300-0393 茨城県稲敷郡阿見中央 3-21-1

茨城大学農学部フィールドサイエンス教育・研究センター 小松崎将一

電話/FAX 029-888-8707 E-mail [komachan@mx.ibaraki.ac.jp](mailto:komachan@mx.ibaraki.ac.jp)